

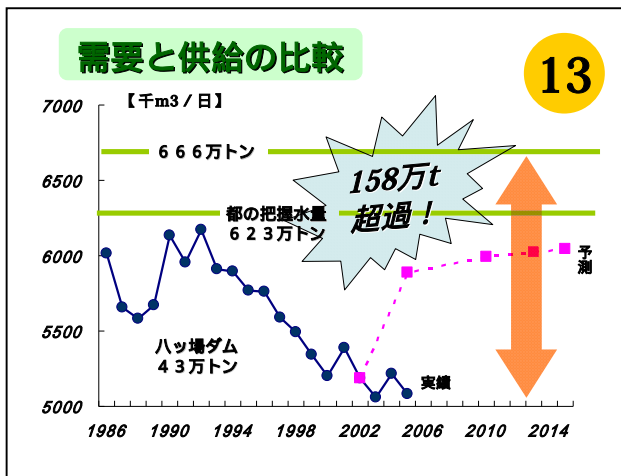


# 裁判所の壁に、「水あまり」の実態を投影!

4月11日午前11時から第8回目となる裁判が東京地裁で開かれました。入り口議論をようやく通過し、利水をテーマにしての陳述がついに開始です。パワーポイントも初めて使用し、準備万端整えた原告の主張は、ビジュアルにかつ分かりやすく、短い時間ながら濃い内容で展開しました。只野靖弁護士が利水問題全般について、原告の苗村洋子さんが東京の利水に関して10分ずつ陳述しましたが、準備書面の内容も、またパワーポイントの内容もなかなかの力作で見事な出来ばえでした。グラフで示された水の需給の推移、それに対する予測の折れ線を比較してみると、ダム建設理由の2つの柱のうちの利水目的はまったく破綻していることが誰の目にも明白となります。壁に次々と映し出されたグラフや新聞記事は、実証として裁判所全体に大きなインパクトを及ぼすことができました。

陳述について、裁判長さえも「大変わかりやすい説明でした。皆さんの準備のための努力には敬意を表します。」と語りました。こうした発言は裁判中にはめったにないことだそうです。

裁判長はまた、今後の日程などについて、「差し止め裁判なのだからあまり長引かないほうがいいでしょう」などと思わせぶりの発言もしています。



高橋弁護士は「次回は地盤について主張を述べますが、ダムサイトと貯水域の地すべり問題を2回に分けて行う必要があります。」としています。被告が「原告の陳述が全部されてから反論する」と述べたことに対しては、「反論できないというならいいが、全部聞いてからでない」と反論しないというのはおかしい」とせまり、結局、裁判長は「原告は次の陳述の用意をしてください。被告は反論を用意してください。」と指示しました。

地盤のもろさはハッ場ダムのアキレス腱。高橋利明弁護団長のこだわりのテーマでもあります。次回はぜひもっと大勢の方が来てくださり、傍聴席が満席になることを願っています! (懸樋哲夫)

東京都が出している数字から考えても、「水あまり」は明らか。水の使用量が減って2005年実績は508万m<sup>3</sup>。都の需要予測は600万m<sup>3</sup>で、現状の保有水源623万m<sup>3</sup>。これにハッ場ダムを足すと666万m<sup>3</sup>となり、実績よりも158万m<sup>3</sup>超過している。東京都は、実績とかけ離れた過大な水需要予測を立て、自らの保有水源量を過小評価することによって、ありもしないダムの必要性をつくり上げ、無駄なダムに参加しようとしている。

傍聴しよう!!

次回の裁判は  
7月4日(火)午前11時~  
東京地方裁判所 606号法廷  
裁判後弁護士会館にて  
説明会を行う予定

## 各地の裁判日程

栃木	5月25日(木)10:00	宇都宮地裁	東京	7月4日(火)11:00	東京地裁
千葉	5月26日(金)11:00	千葉地裁	群馬	7月14日(金)11:00	前橋地裁
埼玉	6月14日(水)11:00	さいたま地裁	茨城	7月25日(火)13:30	水戸地裁

## 現地の状況

今年3月に始まる予定だった水没予定地代替地の分譲は、またしても先延ばしになった。国交省によれば、夏か秋頃には数軒が住宅ゾーンの分譲地を買い取る意向というが、吹きさらしで、地盤に不安のある代替地に家を建てて暮らしていけるのか、地元でも疑問視する人は多い。現地では、7月2日(日)に新データに基づき、地質問題をテーマとするシンポジウムを開催する予定(ハッ場ダムを考える会主催、13:30〜、群馬県中之条町ツインプラザホール)。

3月10日の「みのもんたの朝ズバッ！」で税金の無駄遣いの代表としてハッ場ダムが取り上げられたことに対して地元では相当の反発があり、上毛新聞に「私たちが先祖伝来の土地を失うのも、国交省の方々が昼夜、頭を下げて水没住民の家を訪ねるのも、すべて下流都県の人たちのためなのです」という投書が載った(3/26)。その反論として「必要もないダムの建設費を押し付けられる私たち下流の人間も、私たちの子供たちの世代も第二の犠牲者。苦渋の選択で受け入れたダムをもういらぬと言われるのは堪え難いことに違いありません。しかし、いらぬダムのために、皆さんのかけがえのない故郷をこれ以上破壊させることはないではありませんか。下流の人間の都合で振り回されてきた上流の人たちに対して、私たちは責任をとらなければなりません。ダム事業とは切り離して、水没予定地の方々の生活再建のために、税金は使われるべきだと思うのです」という内容の投書を送った(4/11掲載)。地元が表向きダムを受け入れているという難しい状況の中で、理屈だけではない、思いを伝えるための模索を続けていきたい。(深澤洋子)

## アースディでアピール!

4月23, 24日代々木公園会場を中心に展開されたアースディ東京2006に「ハッ場ダムを考える会」として初参加。代々木公園会場のケヤキ並木に設けられたNPOビレッジに出展しました。環境エコノザウルスの作者・本田亮さんのご協力でひと際目立つパネルも用意でき、また、渡辺誠さんをお願いした新しいチラシはタペストリー形式の説明パネルに仕立てて展示しました。降りそうで降らない天候にも恵まれ!「ストップ東京の会」の会員でもある東京在住会員を中心に連日13~14人体制でハッ場問題をアピール、気迫のチラシ撒き大作戦では用意した3500枚を撒ききりました。

「や?ん?ば??」と首をひねりながらチラシを受け取る人、「知ってる、知ってる!この前テレビでやった!!」と反応する若者、「ストップハッ場ダム」の凛々しい旗を見て署名はないの?と声をかけてくださる方もありました。まずは“やんば”を知って欲しいと参加したアースディ。こんなにもおおぜいの若者たちが来るのかと驚くと同時に、どうしたらもっとおおぜいの市民に“やんば問題”を伝えられるのかと、ますます課題の大きさも感じた2日間でした。

新たに宣伝グッズに加わった絵葉書は、ハッ場を知る人を増やすために、絵葉書を買う行為から是非とも知り合いに出して伝える運動へと展開したいものです。捨てられたチラシもほとんど見かけなかったことに期待をかけ、今後もどんどんハッ場の種まきを加速しましょう。アースディ実行委員長のC・Wニコルさんからは、10月9日に行うライブ&トークイベント「加藤登紀子と仲間たちが唄う ハッ場いのちの輝き」の呼びかけ人にも快諾のお返事をいただきました。流域の市民に、全国の市民にもっとハッ場を知らせましょう!!  
(大河原雅子)



ダム、空港、道路・・・

## なぜ止まらない?! ムダな公共事業 & ハッ場ダム学習会 報告

去る5月13日(土)午後、小平市中央公民館において、東京の会主催の学習会が開催された。五月雨のふる肌寒さの中、34名の参加者は、3名の講師陣による熱のこもった講演やパワーポイントを駆使した報告に熱心に耳を傾けた。数多くの質問も寄せられ、予定時間をオーバーする程だった。

### 講演『なぜ止まらない?! ムダな公共事業』

(報告: 田中清子)

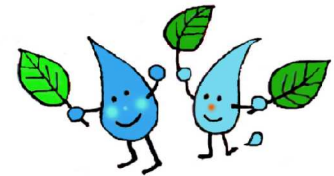
佐藤謙一郎さん(公共事業をチェックする議員の会前事務局長)は18年の議員活動の間、政治側の受け皿として、市民運動のバックアップや国とのパイプ役を果たしてこられた。院内での活動も精力的で、その総決算として民主党のマニフェストにハッ場ダム中止を掲げた功績は多大である。豊富な活動経験の一端を織りまぜながら、公共事業を止められるか否かは、ひとえに市民側の力量にかかっていると指摘。政権交替を実現させる一方、市民運動にもある縦割りの壁を克服し、知恵と総意を結集してハッ場ダム中止の行動を持続させる必要がある・・・と。

### ハッ場ダム住民訴訟報告『それでもハッ場ダムは必要ですか?』

梶原健嗣さん(東京大学大学院博士課程在籍)は利水・治水・危険性の論点に加え、新たに堆砂問題にも着目し、ハッ場ダムが将来的に深刻な環境問題を引き起こす可能性を警告する。そして、「長良川河口堰の場合、去る3月31日、最高裁は『工業用水需要がいつか発生するかもしれないので、堰への支出は違法とは言えない』と上告を棄却している。従って、ハッ場ダムの裁判についても楽観はできない。こうした司法の壁を突きくずすためには、毎回傍聴席を満員にして、住民の関心が高く、世論の支持があることを示す必要がある」と力説した。

### 『考えよう! 多摩の地下水の<sup>いま</sup>と<sup>あす</sup>未来』

遠藤保男さん(多摩の地下水を守る会)は、多摩地域の水道水源の3割を占める地下水について、東京都が正規の水源として扱っていないと報告した。水源として最高の水質を持ち美味しい地下水は、地盤沈下も沈静化した今日、保全しつつ適正利用することが大事である。都をはじめとする自治体は地下水保全条例を制定し、水源の自立を目指して市民とともに努力するべきだと訴えた。



## これじゃムダなダムはなくなる

### 事業評価委員と面談

前回ニュースでお知らせした「東京都水道局事業評価委員会に対する質問」。1月、2月、4月、5月と、ようやく4人全員と話をすることができました。直接会って話す機会をなんとかつuckingいただいたことには、感謝し敬意を表します。しかし、ハッ場ダム計画にOKマークをつけた理由に納得できるものではありませんでした。

専門家の役割は、水需要予測の600万m<sup>3</sup>の妥当性や保有水源量の把握についてきちんと検証した上で、ハッ場ダムの必要性を点検・評価することであるという観点で、各委員にどう考えているのかを質問しました。答えに共通しているのは、「数字は水道局が出したものである」という姿勢です。つまり、自分たちの役割は、水道局が出した前提条件の上で出てきた計画について評価するのであって、前提条件の出し方や数字そのものについて云々するものではないという姿勢なのです。そして、「温暖化で少雨傾向にある」「首都機能を考えると水源の確保が必要」「予測には不確実性があるが、供給する行政側は安全サイドに立たざるを得ない」という理由が述べられました。一般論としては理解できる面もありますが、税金を使う以上、水がどれだけ必要なのか、安全サイドをどこまで認めるのか、数字の妥当性を検証しないのでは、専門家として責任ある姿勢とは言えません。

事業評価のしくみは、これによってダムからの撤退を可能にするものです。委員会のあり方そのものも問題ですが、データを読み取るころから専門家が責任を持ってチェックし、きちんと点検・評価すべきではないかと考えます。

(苗村洋子)

**至急！**

## 利根川流域市民委員会（仮称）発足記念 利根川ツアーのご案内

同委員会が5月末に発足するのを記念する企画。

6月3日（土） 4日（日）にかけて利根川中流域の要所をバスで見学します。

3日夜には利根川流域市民委員会の第2回会合を持ち、流域各地の問題を市民の目で確認し、互いに各地の活動について報告・意見交換します。これから始まる利根川水系河川整備計画の策定過程に市民の意見を反映させるためのスタートにしましょう！

（昨年12月に策定された河川整備基本方針は、基本高水を過大に設定し、今後十数基もダムを必要とするような非現実的な計画を含んでいますが、これに基づいて策定される河川整備計画では「関係住民の意見を反映させる」ことが定められています。）

**参加費：全行程参加で、人数、部屋割りにより、15,000～17,000円**

### 主な日程

6月3日 12時10分 JR沼田駅の改札口集合 見学

宿泊：ホテル山水（茨城県古河市）18時30分 夕食&第2回利根川流域市民委員会会議

6月4日 見学 15時頃 成田駅解散

**期日が迫っていますので参加申込み・問合せは至急！！**

深澤（T/F 042-341-7524）まで（部分参加も可）

## 今後のイベント

### 加藤登紀子と仲間たちが唄う

“ハッ場いのちの輝き”

- 出演は他に、永六輔、野田知祐、  
大熊孝、池田理代子

日 時： 10月9日（月・祝）

午後3時～5時

会 場： 日本青年館大ホール

チケット：指定席5000円、

自由席3000円

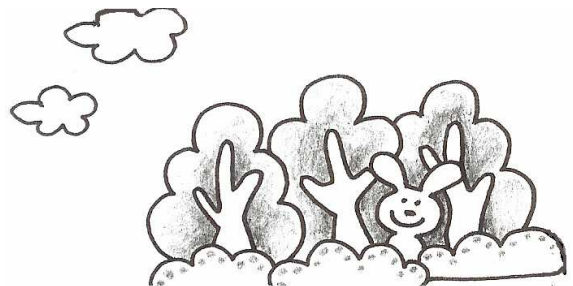
主 催：「ハッ場といのちの共生を考える」  
実行委員会

### 訴訟2周年集会

日 時：12月9日（土）

13:30～16:30

全水道会館（予定）



### \*\*\*入会のお願ひ\*\*\*

今回のニュースは会員のほか、カンパをいただいた方々にお送りしています。

活動を支えていくためにも、ひとりでも多くの方のご入会をお待ちしています。

ぜひ、ご友人などにも会への参加をお勧めいただけますよう、お願い申し上げます。

\* 会費、カンパは下記の郵便局の振替口座へお振込みください。（なお、通信欄には、会費・カンパの別、また、連絡経費の軽減のためファックス番号やメールアドレスなどもご記入ください。）

振替：00120-8-629740 ハッ場ダムをストップさせる東京の会